

大輪系アスターを年内収穫するための加温温度			
【要約】 大輪系アスターの‘ボブチェリッシュ’‘ボブスイートピンク’‘シャギーローズ’を少量土壌培地耕で9月上旬に定植し、ハウス内の加温温度を10℃に維持することで、年内に切花長70cm以上の切花が得られる。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・花き係		【実施期間】 令和4年度	
【部会】 農産	【分野】 競争力の強化	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

大輪系アスターは、イベントの多い秋から年末に需要が高まり、これらの時期に生産するには電照処理による開花調節や加温による生育・開花促進が必要であるが、冬季の加温温度が明らかでない。

そこで、年内収穫に向けての加温温度の違いが切花品質に及ぼす影響について検討する。

【成果の内容・特徴】

- ① 80%採花日は、いずれの品種においても、加温温度10℃、15℃ともに12月中旬となり、年内に収穫できる（表）。
- ② ‘ボブスイートピンク’は、加温温度10℃、15℃による切花長の差はなく、ハウス内の加温温度10℃で、70cm以上の切花が8割得られる（表）。
- ③ ‘シャギーローズ’は、加温温度15℃が10℃よりも切花長が長くなるが、ハウス内の加温温度10℃で、70cm以上の切花が9割程度得られる（表、図）。
- ④ 花径は、いずれの品種においても、加温温度10℃、15℃による差はない（表）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 品種は、(株)ミヨシの‘ボブチェリッシュ’‘ボブスイートピンク’‘シャギーローズ’を用い、一茎一輪仕立てとした。‘ボブチェリッシュ’は当部で播種・育苗した苗、‘ボブスイートピンク’‘シャギーローズ’は購入した406穴プラグ苗をそれぞれ用いた。
- ② 栽培は、鉄骨ガラス温室（51㎡）で行い、加温はネポン小型温風機（型式：KA-125E）を用いて、ハウス内最低温度が下回らないよう10月24日から行った。
- ③ 75Wの白熱球を用いて、定植床が最低50lxとなるよう設置し、定植日から11月16日まで毎日22時から翌日4時まで6時間電照を行った。
- ④ 定植は9月9日とし、1プランター当たり12株（6株の2条植え）とした。また、液肥は、OKF-1（OATアグリオ社製）を用い、定植から消灯時期までをEC0.3dS/m、消灯から収穫までをEC0.5dS/mに調整し、300ml/プランター・回で1日3～5回施用して栽培した結果である。
- ⑤ ‘シャギーローズ’は、消灯日の草丈および切花長が、他の2品種に比べ最も長くなり、草丈の伸長が旺盛であった。

[具体的データ]

表. 加温温度の違いによる切花品質と採花日

品種	定植日	加温温度	消灯日の 草丈	切花長 (cm)	切花長別割合(%)			花径 (mm)	茎径 (mm)	採花日(月/日)	
					X<70cm	70cm≤X<80	80cm≤X			10%	80%
ポプチェリッシュ	9月9日	10°C	52.5	72.6	38.2	41.2	20.6	84.4	4.8	12/12	12/19
		15°C	57.4	74.7	26.4	43.1	30.5	85.5	5.2	12/7	12/15
ポブスイートピンク	9月9日	10°C	48.2	78.5	12.1	37.9	50.0	88.2	6.0	12/12	12/19
		15°C	60.0	78.0	15.7	42.9	41.4	89.8	6.0	12/9	12/15
シャギーローズ	9月9日	10°C	66.7	87.6	10.3	10.3	79.4	104.0	4.7	12/7	12/15
		15°C	72.3	91.9	2.9	10.3	86.8	105.3	5.1	12/5	12/12

注1) *はt検定により有意差(5%水準)あり。nsは有意差なし。

注2) 花径は花卉が満開時の直径を測定した。

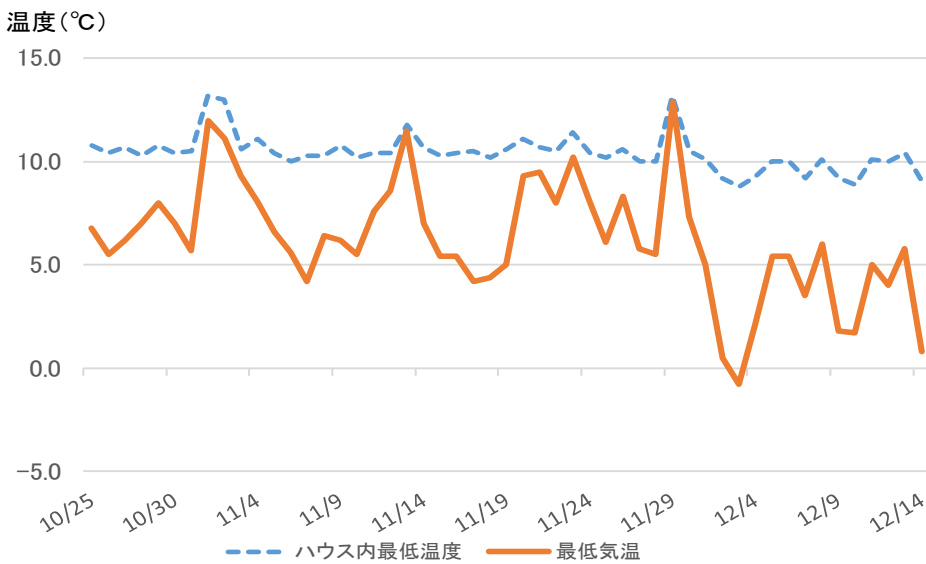


図.10°C加温のガラス温室内の日最低温度と最低気温の推移

※加温は、10/24から開始した。

※最低気温: 滋賀県農業技術振興センター花・果樹研究部(滋賀県栗東市荒張)での観測値

[その他]

・研究課題名

大課題名: 経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究

中課題名: 需要の変化への対応と農地・農業技術等のフル活用

小課題名: 大輪系アスターの環境制御による生育・品質向上技術の確立

・研究担当者名: 前田 大輝 (R4)、布施 雅洋 (R4)